

グローバル化するキャンパスにおける学修支援の在り方

# 全員留学を支える学修支援について

国際教養大学

磯貝 健



公立大学法人

国際教養大学

Akita International University



国際教養大学マスコットキャラクター ONE(ワン)

# 国際教養大学の概要(2016年11月1日現在)

○2004年4月に開学した全国初の公立大学法人【設立団体:秋田県】

- ・ 1学部 (国際教養学部) 入学定員175名
  - 2課程 (グローバル・ビジネス課程、グローバル・スタディズ課程)
- ・ 学生数:45都道府県856名
- ・ 留学生:36カ国196名 (半年又は1年、海外提携校からの交換留学)
- ・ 常勤教員数(学部+専門職大学院):83名(うち外国人教員 43名)
- ・ 海外提携校:47カ国・地域182校

※専門職大学院「グローバル・コミュニケーション実践研究科」

2008年9月開講 入学定員30名

- ・ 英語教育実践領域
- ・ 日本語教育実践領域
- ・ 発信力実践領域



# 国際教養大学の特色

- 全ての授業を英語で実施
- 徹底した少人数教育
- 1年間の海外留学の義務付け
- 世界の大学からの交換留学生受入 (授業料相互免除方式)
- 1年次生の全寮制
- 教員の半数が外国人
- セメスター制の採用・9月入学の重視
- GPA、TOEFLの活用
- 24時間開館の図書館
- 9割の学生が住むキャンパスは一大居住区
- 専任教員は全員任期制、年俸制(但し、テニユア制度あり)
- 上記を理解したうえで学生と教職員が入ってくる



# 国際教養大学ミッションステートメント

国際教養大学は、「国際教養教育」を教学理念に掲げ、グローバル社会におけるリーダーを育成することを使命とする。

国際教養教育は、世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力や思考力、これらの上に築かれたグローバルな視野とともに、英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力を涵養する。

国際教養教育を受けたものは、**確固たる「個」**を確立し、道義心の修養を通じて開かれた高潔な精神と情熱を持って時代の諸課題に立ち向かい、自らが暮らす地域や所属する国家のみならず広く人類社会に貢献する。



# 4年間の学びの流れ

専門教養教育  
(GB, GS)

基盤教育  
(BE)

EAP英語集中プログラム

留学

期間: 1年間

留学の要件:

- ・TOEFL 550
- ・GPA(評定平均値) 2.50以上
- ・EAP+ 27単位

異文化に対する  
寛容性・柔軟性・  
自立性を醸成

124単位  
留学修了

卒

業

GPA  
2.0以上

入学  
プレースメントテスト

Bridge Course  
TOEFL 550 ~

EAP終了  
TOEFL 500 以上

EAP III  
TOEFL 500 ~

EAP II  
TOEFL  
480 ~ 499

英語で学ぶ  
ための  
英語力養成

EAP I  
~ TOEFL 479

実践的コミュニ  
ケーション能力

国際社会に  
関する幅広  
い教養

日本人として  
のアイデンティ  
ティの確立

キャリアデザイン  
を通じた職業意  
識の涵養

諸科学の基礎  
理論を学習

グローバル・  
ビジネス課程  
(GB)

EAP  
+  
30  
単位  
専門課程決定

経済・ビジネスに  
関する基礎理論  
と知識

ケーススタディ  
を通じた応用力  
の醸成

より幅広い  
知識と理解力  
の醸成

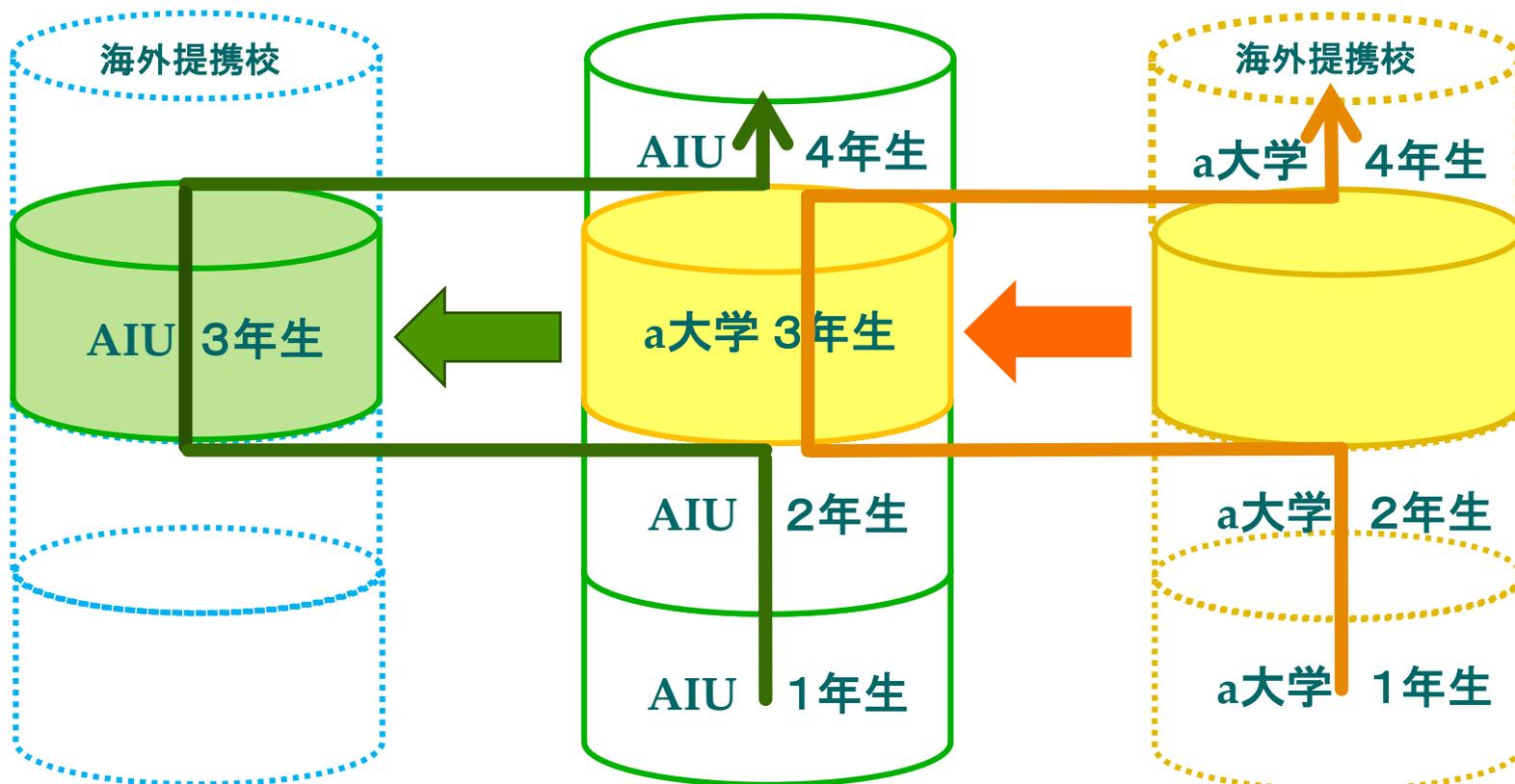
グローバル・  
スタディズ課程  
(GS)

地域研究の基  
礎知識と手法  
の理解

インターンシップ  
将来の進路と  
職業適性を  
考える

+ 教職員が一体となった全人教育

# 海外留学は海外提携校とのダブル・アセンブリー・ライン



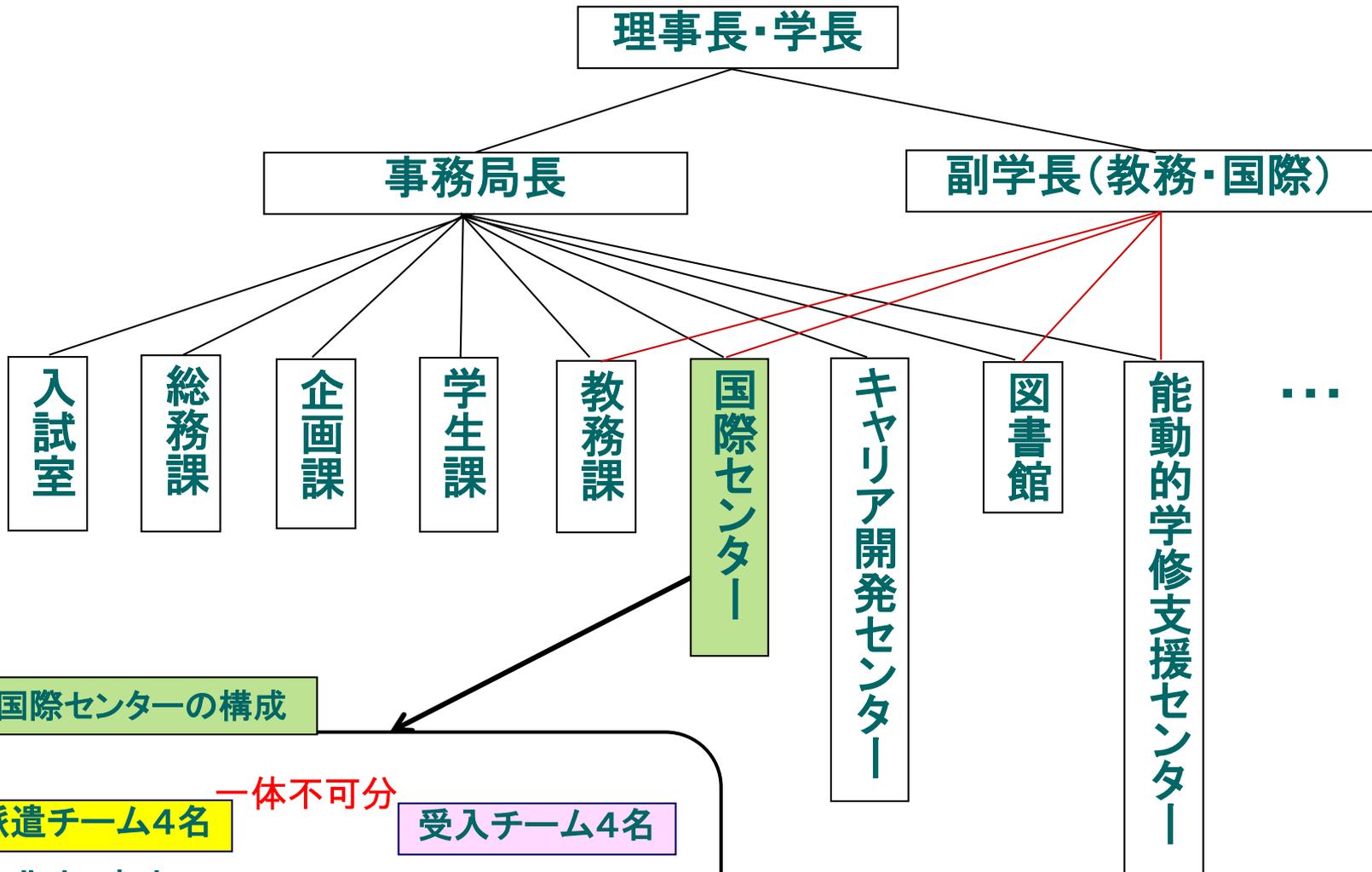
X国 α大学

国際教養大学

A国 a大学

本学のカリキュラム、シラバス・成績等の諸制度、授業の質において世界通用性があることが前提

# 事務局体制・・・あくまでFunctionで分ける・・・



## 国際センターの構成

一体不可分

### 派遣チーム4名

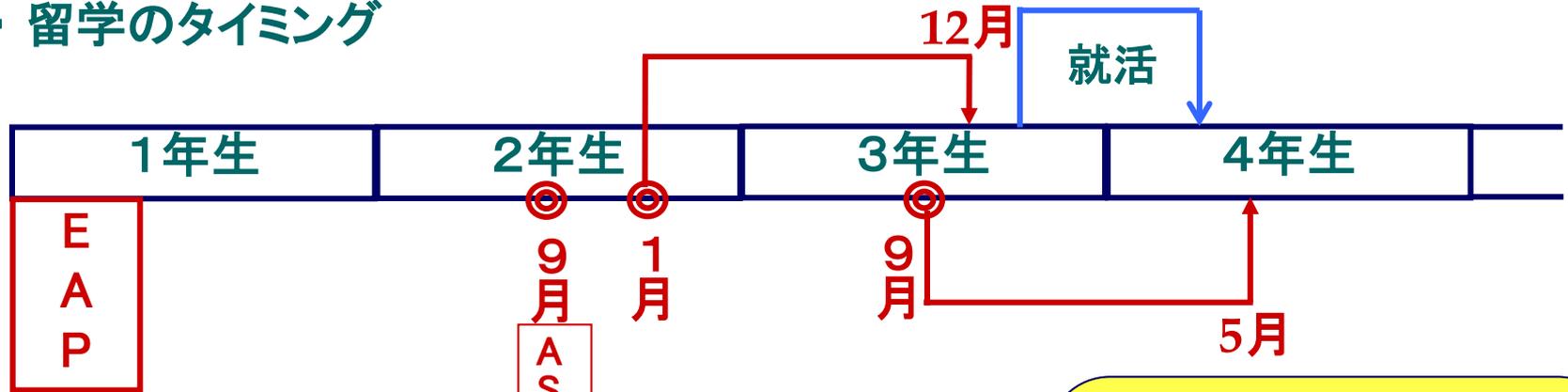
- ① 北米・南米
- ② ヨーロッパ
- ③ アジア
- ④ イギリス・オセアニア

### 受入チーム4名

- ① 受入審査
- ② 入管申請
- ③ 短期プログラム

# 本学の派遣留学制度

- ・ TOEFL: 550点以上、GPA: 2.50以上、単位数: EAPを除いて27単位
- ・ 留学のタイミング



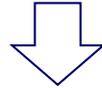
TOEFL、GPAは半年以上前の申請時までにクリアしないといけない

留学が、留学前の生活、留学後の就職活動、卒業、大学院進学スケジュールに与える影響=プレッシャーは非常に大きい

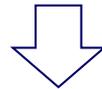
- ・ 2年生の秋を目指さず、実力をつけることを重視
- ・ 留学先で30単位の取得を目指す。帰国後は単位変換

# 派遣留学の流れ

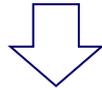
留学説明会(一般学生対象)  
留学オリエンテーション(留学基準に達した学生対象)  
・志望大学の調査方法等を案内



学生による留学申請  
・第1希望～第6希望まで記入(志望理由も)



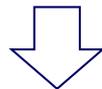
国際センターにて留学先割り振りの原案作成(超ハード)



課程長のもと、各課程／プログラム内にて協議(TOEFL、GPAのほか、留学志願書、取組姿勢に基づいて意見収集)



留学選考委員会決裁(課程長)(国際センター)



報告

教育研究会議

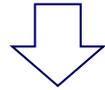
顔が見える現場での判断

留学先決定は競争社会。  
早くから現実的な人生の選択を迫られる。  
(第一志望の留学先にこだわるか、4年で卒業するか等)

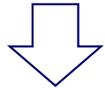
# 派遣留学の流れ(続)

## 留学セミナー(1単位)

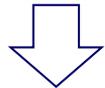
- ・留学直前のセメスターに必ず履修
- ・15回のうち4回欠席すると**留学取消**となる



**コースマッチングリスト**を作成、アカデミック・アドバイザーの承認を得て、教務課へ提出 (バックアッププランも用意しておく)



国際センター派遣チームの留学コーディネーターが、自らが担当する**学生全員**と面接、不安材料の洗い出し



不安がある学生については、国際センター長が面接し、留学の可否を判断

留学志望大学の調査、コースマッチングリストの作成は、**必ず学生自身にやらせる** “It’s your study abroad!”

# 危機管理体制

## ・留学前(事故の予防対策こそ最大の危機管理)

- 留学セミナー(1単位)の内容:  
心構え、留学制度と留意事項、誓約書、単位互換、海外事故事例、保険、危機管理プログラム、ビザ、航空券、クレジット・カード、携帯電話、メンタル・ヘルス、キャリア・デザイン、時事問題、先輩・留学生との情報交換、学長・副学長講話、最終レポート等

## ・留学中

- 外務省、危機管理会社、保険会社の情報を留学中の全学生、留学準備中の全学生にメールで発信(国際センター)

- メールは必ず毎日チェックしなければならない  
返信がない場合は大捜査網が敷かれる(先方国際センターとの連携)

## ・事件・事故発生時

- 軽微な場合は危機管理会社・国際センターからの安否確認のみ
- 重大な場合は、危機管理マニュアルに従い緊急対策本部設置  
(シミュレーション訓練実施済)
- 危機管理会社の支援による救急搬送、国外脱出の決定等

# 留学生受入による学修効果の最大化

基本的考え方：共に学び、共に生活する環境や仕組みを作る

## 1. 科目時間割上の工夫

	午前中	午後	夕方(&週末)	夜/深夜
留学生	日本語クラス	GB科目 GS科目	クラブ パーティ 地域交流	グループワーク 共同生活 (料理、掃除、 語り合い)
日本人学生	基盤教育科目	日本研究科目等 と一緒に受講	ボランティア等	

## 2. 履修登録、クラス運営上の工夫

### ・Quota System :

留学生が履修しそうな科目において、一定の留学生用の枠(座席)を確保しておく。これにより、留学生と日本人学生が共に学べるクラスが実現する。

### ・グループワーク :

多くのクラスでディスカッションや、グループワークが導入されているが、教員が留学生と日本人学生が適正な比率でグループを形成されるように調整している

# 留学生受入上の課題(舞台裏)

## ・ 交換留学のバランス維持のための、継続的な受入

カリキュラム、授業の質、食事、教育施設、宿泊施設、自然環境、娯楽、親しい友人、他国からの留学生との交流、地域の方々、大学の文化等

満足要因は何か？  
差別化要因は何か？

ひとつは 

徹底したケア

- ・ 留学生アドバイザー  
(=日本語教員)
- ・ 教務課、学生課
- ・ 修学・健康支援コーディネーター
- ・ カウンセラー、保健師
- ・ 寮常駐の警備の方
- ・ 盛んな地域交流
- ・ 学生の相互扶助

## ・ 奨学金提供の限界

## ・ クラス分け、授業時間設定の難しさ

## ・ 希望する科目が履修できない場合の対応

## ・ Handicapや持病を抱える学生への対応

## ・ 日本語が話せない学生の病気・怪我への対応

## ・ 学生ビザの有効期限の管理

  
全ての問題の解決は提携校との信頼関係の上に成り立つ

留学生から  
母校への  
  
フィードバック

「誰もがとても親切だった」  
「自分のことを理解してくれた」  
「プロフェッショナルな対応だった」  
と感じさせる徹底したケアを提供

# 留学前の学修支援(困難を抱える学生)

## 落ちこぼれを出さない教職員の支援体制

- 教務課への欠席者連絡
- SAC (Special Advising Care) 制度
  - GPAが低いケース
  - TOEFL550点に到達できないケース

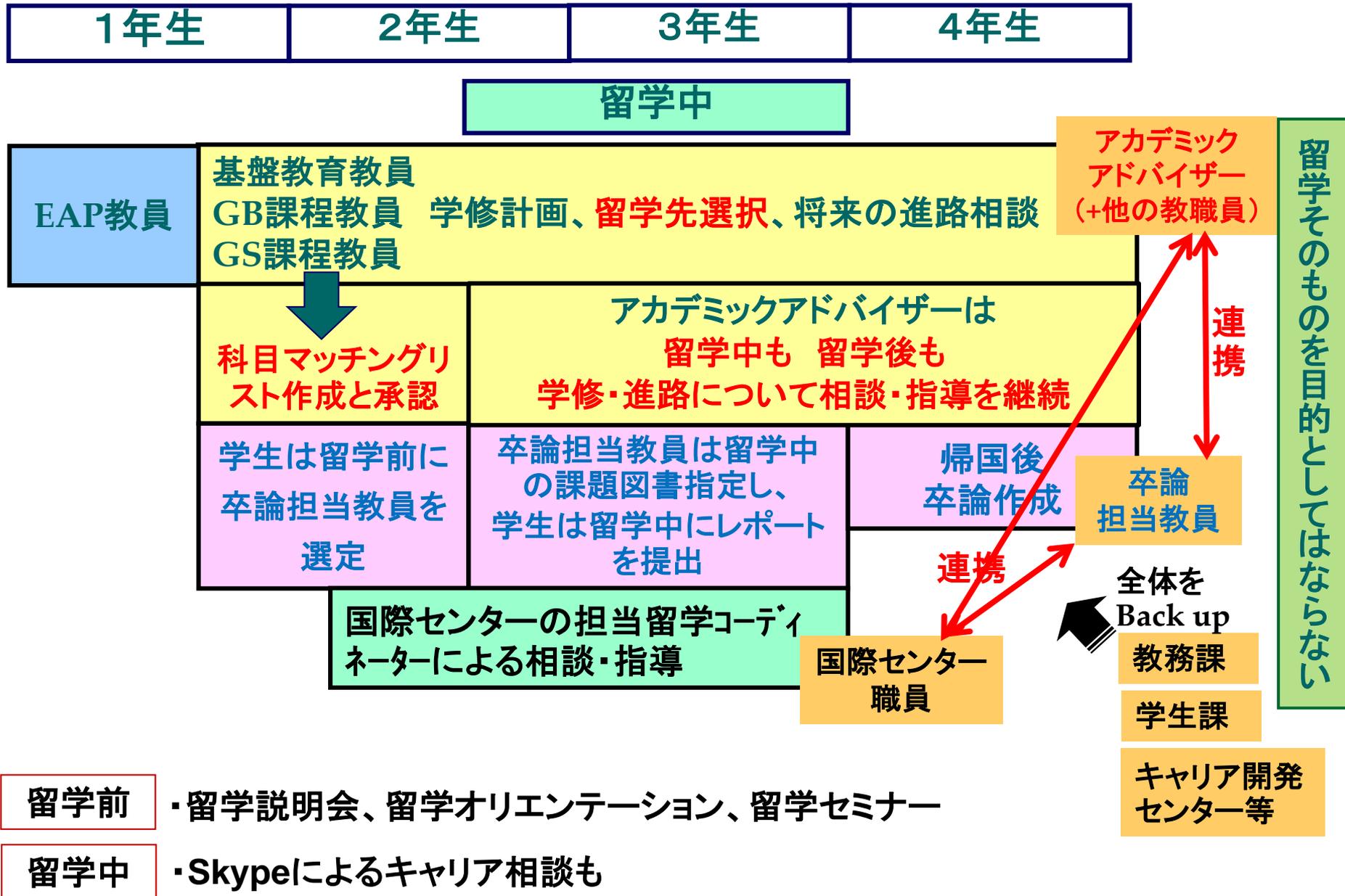
段階が進みProbationになった場合や、メンタル面で問題を抱えている場合は保護者に連絡

学修方法改善、生活指導、メンタル面でのケアを、アドバイザー、教務課、学生課、カウンセラー等が協働して対応

- Academic Achievement Center(学修達成センター)における Peer Tutoring制度 (誰でも利用できる家庭教師的指導)

- IR分析結果を入試、入学前後の支援体制に反映予定

# 留学前後の学修支援(一般的な学生へのアカデミック面の支援)

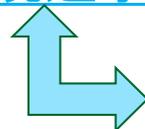


# キャンパス内の学修・生活環境すべてが留学準備

- ・入学初日からの全寮制 & 留学生との共同生活
- ・全て英語での授業と膨大な宿題をこなすサバイバル力
- ・教室、部活、キャンパス内に外国人が当たり前にいる空間
- ・ディスカッション力、批判的思考力の向上を意識した授業構成

Day1からの24時間の生活すべてが留学への準備として機能している

- ・これに加え、アカデミック・アドバイザー制度の実質化
  - 専攻に応じたカリキュラム上のPrerequisiteに加え、履修の連続性の指導
  - 留学先大学との科目マッチングを通じた留学の目的・効果の明確化  
(アドバイザーが提携校の教員とメール交信・推薦状送付も)
  - 将来の職業選択および大学院進学を見据えた学修アドバイジング

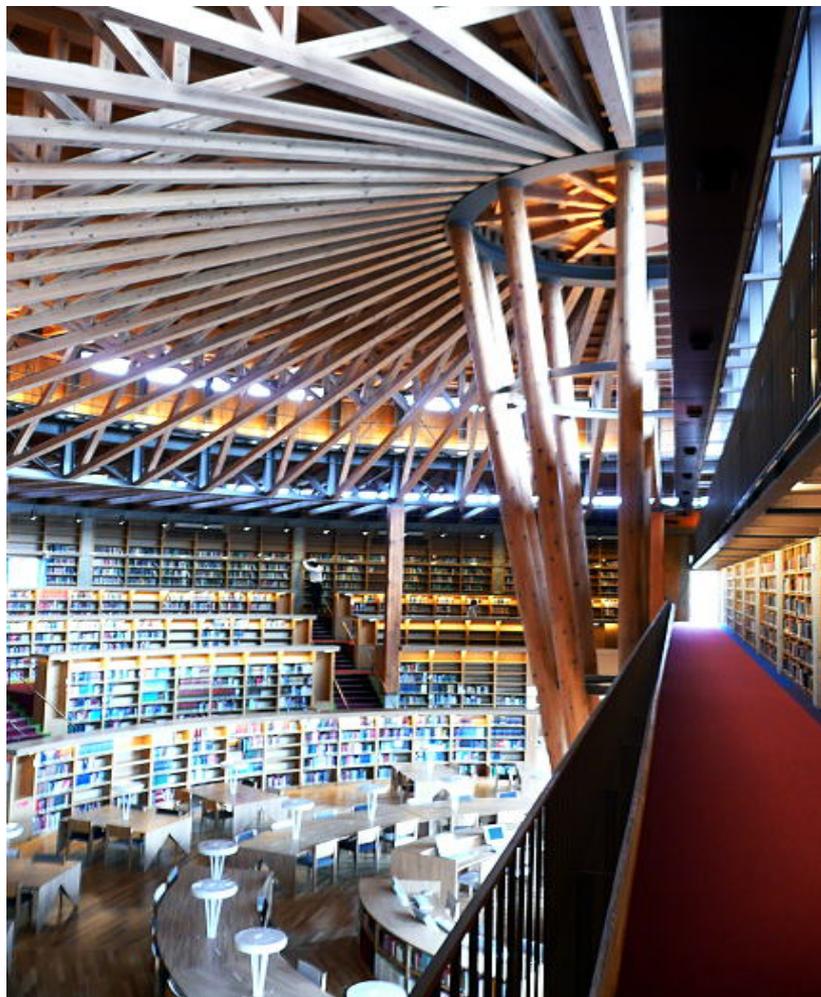


Academic Career Support Centerや  
他の教員との連携

# 学修を支える環境(24時間・365日眠らない図書館)

LDIC(言語異文化学修センター)

図書館内部



AAC(学修達成センター)

# 学修を支える環境(学生寮、学生アパート)

こまち寮(義務寮)



グローバル ヴィレッジ



ルームシェア(こまち寮)

# 基本的な教育・学修支援の考え方（機員の個人的解釈）

親心として、やれるだけのことはやる。「しかし、」  
いかに自立させるかを常に念頭に置かねばならない。

## 学修に関する自立 (IQ的側面)

国際通用性のある  
カリキュラム

- ・現状分析力
- ・数理的能力
- ・批判的思考
- ・異文化理解
- ・発信力
- ・課題発見力、解決力

自律的に勉強し、自身で真の  
実力をつけるような導きを行う

## 人格形成に関する自立 (EQ的側面)

厳しい勉強 全寮制・ルームシェア  
娯楽のない田舎生活

- ・忍耐力
- ・受容性
- ・協調性
- ・創造性
- ・積極性
- ・行動力
- ・コミュニケーション力

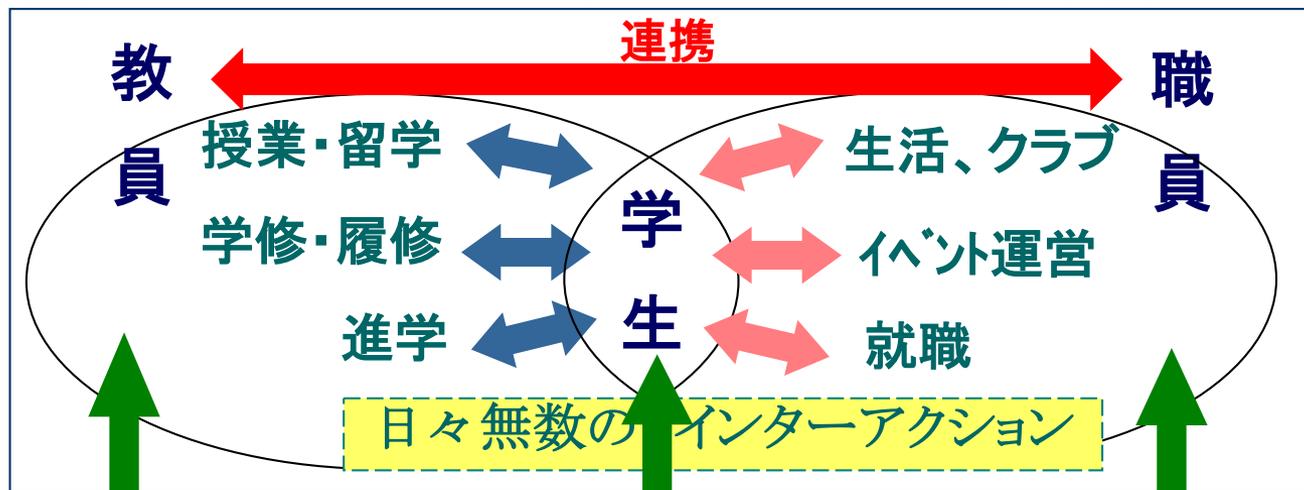
学内に加え外部社会との交わり  
を促し、人としての成熟を目指す

自立する  
Ethos  
(気風)  
の醸成

# 自立を促すことこそ究極の学修支援の目的

～過剰なサービスを提供することではない～

教職協働による全人教育で自立心を涵養する



学生達が『勝手に育つ異文化環境』、『切磋琢磨する文化』をいかに生み出すか

↑  
教職員の Parental Affection & 学生間の Ethos

親元を離れた寮生活から異国での厳しい勉強までを支える Labor Intensiveな教職協働は全て、確固たる「個」の確立を促すというミッションに根差したものでなくてはならない